

な

ご

み

っ

う

し

ん

発行日：平成 27 年 12 月 21 日(第 12 号)

発行：島田療育センターはちおうじ

家族からのインタビュー⑤です。子どもたちは、愛されていると感じることで感謝の心が強くなっているのがわかります。

所長 小沢 浩

ぼくは、肌がとても弱くて、夜中に顔や耳をよくつめでかいていたそうです。朝、おきると枕やシーツが赤くなっていて大変だったそうです。

お母さんは、1年間ぼくの育児日記をかかさずつけてくれました。それを見てぼくは、たくさん食べて、飲んで、ねて、どんな体が大きくなっていました。

この育児日記を見ると、色々大変なことがあったんだなと思いました。

(中1年男子)

産まれるのはじん痛が来てから何時間もかかるから、お母さんはすごいと思いました。鼻からすいかを出すぐらいの痛さってすごく痛そうだと思います。

お母さんはそんなに痛い思いをして私を産んでくれたのかと、うれしくなりました。お母さんが私を産んでくれたおかげで、今生活が充実しているから、産んでくれたことをお母さんに感謝したいです。普段ははずかしくて言えないけど、「産んでくれてありがとう」といつか言えたらいいです。

(中2年女子)

わたしは生まれる時なかなか出てこなくて大変だったそうです。朝方に生まれたので、夜父がいびきをかいて寝ていたのが心細かったと言っていました。父と母がすごい喜んでいたら、先生に「これからが大変なんですよ。」と言われたそうです。

「小さく産んで大きく育てなさい」と言われてきたので母は毎日1万歩歩いたり、胎教としてクラシックを聞いたりしていたそうです。歩くと新鮮な酸素がおなかに入って赤ちゃんに良いとか。1万歩も歩いたなんて考えられないよ。一生分歩いたね。と言っていました。

わたしが生まれて14年。小さく生んで大きく育てなさいの言葉どおりわたしはすくすく大きくなりました。物忘れが多い母ですが生まれてきたことをよく覚えていました。はじめは妊娠とわからなくて刺身があたったと思い病院へ行ったこと、へその緒がゴムみたいだったことなどいろいろ聞けました。わたしは大切にされているんだと思いました。

(中2年女子)



ぼくは産まれて2日目ぐらいに体重がへってしまって小児科へ入院してしまった。だからお母さんより少しおそく退院してとても心配だったといっていました。ぼくは（そんなに大変なことだったのか）と思いました。

お母さんはぼくについてのことをたくさん話してくれました。長男できょうだいの中で一番最初に産まれたから、よっぽどうれしかったといっていました。

ひごろぼくは、そんなお母さんの経験を何にも知らず「ババア」とか「早くしろよ」とかたくさんのお悪口を毎日いっているから、たまにはお母さんに対しての言葉づかいやたいどなどをしっかりして、少しでも産んでくれたお母さんのためにも何かやってあげたいなと思いました。

(中2年男子)



私が生まれてすぐ、父はへその緒を切る時に

「これ切ったら痛くない？大丈夫？」

ととても心配しながら切ったそうです。わたしが顔を真っ赤にして産まれてきた時も、父は

「なんで赤いの？大丈夫？これって血なの？タオルもってこようか？」

と大丈夫と言っているのにずっとオドオドしてみたいです。

とてもうまいいなあと思いました。

(中3年女子)

私が生まれた時、あたまがとんがっていて母がびっくりしたって言ってた。宇宙人かと思ったって言ってた。少しショックでした。

(中2年女子)

わたしは3月22日生まれで、春のあたたかい日だったそうです。3月なので菜の花がたくさん咲いた時期でした。お父さんとお兄ちゃんが病院に行く途中、菜の花畑の横を走ってきて、菜の花が海のように見えたそうです。

そこからわたしの名前は、菜の花の海で菜々海です。

(中3年女子)

お母さんにその話を聞いていた時に涙をうかべていたのを見て、とてもぼくを大切にしてくれたんだなと思いました。

お母さんはよく怒るから苦手なんだけど、そんなお母さんが大好きです。

(中1年男子)

(奇跡がくれた宝物 小沢浩著
クリエイツかもがわ より)

